

## 第22回 日本女性科学者の会奨励賞（あいうえお順、敬称略）

島田 緑（SHIMADA MIDORI） 名古屋市立大学医学研究科 講師（申請時）博士（理学）大阪大学

**研究課題：**染色体安定性維持機構と発がん

**賞贈呈理由：**真核生物は様々なゲノムストレスに対して複数の防御機構を持っており、これらの協調した作用がゲノムを安定性維持に必要である。受賞者はこれらの分子機構を、酵母を用いて解明し、高等動物に応用するというアプローチで、減数分裂組換え時に生じる DNA 二本鎖切断の修復状態や RNA 代謝異常をモニターするチェックポイントが存在することを世界で初めて提唱し、それらの分子機構を明らかにした。また癌抑制因子 Chk1 がヒストン修飾を介して転写制御を担うという新たな概念を発表し、ゲノム安定性維持機構における重要な成果をあげた。さらに発がん防御機構のひとつである細胞老化の分子機構およびヒストンバリエント H2AX を介した染色体分配の制御機構の解明に貢献した。これらの成果は癌や遺伝子疾患に対する予防法、治療法の改善に応用できると期待される。

樋田京子（HIDA KYOKO） 北海道大学遺伝子病制御研究所 特任准教授 博士(歯学) 北海道大学

**研究課題：**「新しいがん治療法の開発を目指したがん微小環境における血管の異常性解明」

**賞贈呈理由：**受賞者は、腫瘍組織内の血管が形態のみならず内皮細胞のレベルでも正常血管と異なることを明らかにし、がん間質の概念を変える独創的な研究成果を収めた。腫瘍血管内皮が、がん微小環境の影響を受けダイナミックに変化するなど腫瘍血管内皮の多様性を発見し、更に、腫瘍血管内皮細胞が分泌する biglycan によりがん細胞の転移が誘導されるという、転移の新しいメカニズムを報告し、がん生物学に新しい洞察を与えるオリジナリティが高い研究成果をあげた。また、これらの成果を抗がん剤や診断薬開発につなげる取り組みも評価された。

## 第22回 日本女性科学者の会功労賞(敬称略)

丸岡 賢（MARUOKA KEN） 公益社団法人科学技術国際交流センター管理部長、  
一般社団法人日本女性科学者の会顧問

**賞贈呈理由：**丸岡賢氏は、国家公務員として永年事務畑を歩んでこられ、その間、一貫して科学技術関係の仕事に従事された。また、日本の科学技術の発展に寄与され、信頼も厚く、人望と手腕を評価され、その功績を確実なものとしてこられた。ご定年後も関連官庁等において多くの役職を歴任され、現在もなお精力的に活躍されておられる。定年後に行政書士の資格を取得され、本会がそれまでの任意の団体から、2014年4月1日に一般社団法人への移行にあたり、定款の作成・認証申請に始まり、法人登記、法人運営に関わる規則の作成・整備等、全面的なご支援をボランティアとしてご提供頂いた。法人への移行後も、本会の法務及び財務に関わる部分は言うまでもなく、本会の発展のために、多大なご支援を頂いている。